



一乗小だより

深く考える子
進んで取り組む子
思いやりのある子

福井市一乗小学校 第65号
令和7年7月17日発行
TEL 43-2024 FAX 43-2025
E-mail : itijo-e@fukui-city.ed.jp

児童生徒の意識理解調査より

例年、年3回、7月・12月・2月に実施していましたが、今年度より、学期ごとに1回の9月と2月に実施することにしました。教育活動の大きな節目にあたるタイミングで実施し、2学期間の結果の比較についても考察することができると考えました。しかし、長期休業前のタイミングで子どもたちの様子について振り返っておきたいと考え、見出しにある「児童生徒の意識理解調査」を7月と12月に行います。調査項目は4つだけですが、子どもたちの様子を知る上ではとても大切な項目になりますので、その結果について休業中に教職員全体で共有し、休業明けの教育活動に役立てていきたいと思っております。

今回は7月8日より7月11日に実施しましたので、その結果についてお知らせします。考察については休業中に行いますが、結果をご覧いただき、気がついたことや考えたことがありましたら、学校までお知らせいただけるとありがたいです。

がっこうがたのしい



みんなでなにかをするのはたのしい



じゅぎょうにすすんでとりくんでいる



じゅぎょうがよくわかる



その他、今年特に力を入れている「主体的な活動」についても質問しました。「自主的に活動に取り組んでいる」には全員が「はい」と答えています。さらに、自分の意思をもって活動をよりよくしようと取り組んでいるかについても全員が「はい」と答えています。具体的にどのように取り組んでいたかみんなに書いてもらったところ、次のような取組が行われていました。

いろんな活動に自分からすすんで参加することができました



- 校外学習では1年生も楽しめるように1年生には、はんでをあげるなどの工夫をしました。
- ありがとう集会では自分で質問を考えてインタビューすることができた。
- 私は体育大会のだん長になってみんなに教えるいいきかいはできました。
- 私は、体育大会の応えん練習の時に、体で見せて教えるのではなくて「1・2・3」とか声を使って教えたことです。
- れんごう音楽会で歌を聞いていた時、声を合わせてうたったり、楽しそうな感じで、うたえるといいなと、考えながら聞けました。
- 田うえのときには、わくをつくるときにまわすものがずれないように、まっすぐころがしたことです。
- 自分から習っていない漢字をノートにかきました。
- ちょこがくで 自分で考えました。
- 体育中に1年生がどこに行けばいいかわからなかった時に「こっちだよ」と言ってあげてわかってくれました。

- チョコガクを昔は算数、国語、の二つのせんたくしかないかと思ったけど、先生の色々なアドバイスで算数、国語以外にもっとせんたくしが増えて、たくさんやってみたいと思いました。
- 校外学習の時に全校生徒で遊んだ時に、暑い時にもできる室内での遊びや外で遊ぶ時の遊びなども考えた時です。
- どんな時でも自分の言葉を覚えること、新一年生に積極的に話すことをしました。他にも、誰かがわからないことがあった時「こうするといいいんじゃないかな」と教えてあげました。
- 石油備蓄基地の校外学習に行った時、遊びを考えました。その時に1年生から4年生の子達が5・6年生が強くて楽しめないかもしれないので、5・6年生だけハンデをつけました。
- 新しい一年生が入ってきて、まだなれてないことがたくさんあると思うので、教えてあげました。工夫では、一年生より姿勢を低くして、怖がらずに聞いてもらえるようがんばりました。
- がいらいしゅてつきよさぎょうのときにすすんでごみをかたづけた。
- うんどうかいのふりかえりですすすんでかんそそうをいった。

一乗 ハロー・ワールド

今年新たな取組の1つとして、「一乗 ハロー・ワールド」を行います。この取組は、福井県国際交流協会の協力を得て、外国人講師等による国際理解促進講座を実施し、多様な文化や価値観等を学ぶことで、国際化に対応できる人材を育成するという目的のもと、異文化交流を行います。今年度は次のような計画で全3回のハロー・ワールドを計画し、今回はその第1回ということで「フィリピンの文化紹介」というテーマで実施しました。

ハローワールド①	「フィリピンの文化紹介」	学校生活、1日の生活、ゲーム等
ハローワールド②	「中国の文化紹介」	中国について、小学生の1日等
ハローワールド③	「バヌアツ共和国について」	バヌアツの生活、伝統行事、学校生活、クイズ等

第1回は『Hello, Philippines!』のテーマで、本校 ALT が様々な活動を進めました。最初、フィリピンのコインを使ったじゃんけんから始まり、フィリピンの小学校の生活や行事の紹介、そして、全員でゲームをしました。そのゲームは『Doctor Kwak Kwak』です。日本のあのゲームと似ているかなと思います。どのようなゲームなのか少し紹介します。詳しくはお子様に聞いてください。😊



Choose 4 kids to be “the doctor”. → The remaining kids will make a circle and hold hands, they try to tangle themselves within 1 minute.
 → After 1 minute, they will call “the doctor” to help them. The goal is to untangle the group without anyone letting go. → Once they’ve been untangled, everyone can let go and run from “the doctor”. → The kids tagged by “the doctor” will take on the role in the next round.

実際にどんな様子だったのか、右の写真をご覧ください。すごい状態になっていますが、子どもたちは真剣です。でも、とても楽しそうでした。日本でも似たような遊びがありますが、何かわかりますか？

第2回は中国の生活や文化をテーマにして活動します。日本だけでなく、フィリピンとの違いや共通点を見つけることができそうです。交流する国が広がることで子どもたちの世界も広がることと思います。

..... 切り取り

学校へのご意見や感想をお知らせください。

こちらからも可 →→→

--

年 名前

(無記名でも構いません)

